

9 災害時要援護者等への対応

災害時要援護者支援班

班長 健康福祉部次長

班員 地域福祉課、障がい福祉課、児童福祉課、健康推進課、長寿福祉課

(1) 在宅要援護者生活必需物資給与及び安否確認の状況

地域福祉課

障がい福祉課

長寿福祉課

ア 安否確認の初動について

3月14日(月)～3月17日(木)に市内全26方部の民生委員会長より各地域の情報収集を行なった。

支所と連携をとり、安否確認のとりまとめを実施している方が多かった。

その後、災害時要援護登録者約14,300人をはじめとした要援護者の安否確認について、570名余の民生委員、町内会長、地域包括支援センターなどを中心に実施したが、所在の不明や特に心配な事態の報告はなかった。

イ 生活必需物資の給与について

被災の期間が長引き、生活必需物資が思うように供給されない状況の中、生活必需物資を自力で入手することが困難で生活に支障を来す恐れのある在宅の要援護者への調査、安否確認及び物資の供給支援実施。(3/25に自治振、町内会、民生委員を対象に説明会を実施)

(ア) 生活必需物資の給与状況(説明会実施後、3/26～3/31まで)

a 6日間の対応件数

26日(土)	2件
27日(日)	6件
28日(月)	41件
29日(火)	9件
30日(水)	3件
31日(木)	1件
合計62件	

※28日(月)の件数が多かったが、物資の流通環境の改善やガソリン、燃料状況等も徐々に回復傾向にあることもあり、その後の3日間は減少傾向となった。

b 物資の主なもの

・食料品、介護用オムツ、布団、トイレットペーパーなど

ウ 地域包括支援センターの対応状況

(ア) 在宅高齢者等の安否確認状況について

- 総件数 7,892件
- 時期 3月11日～17日頃(約1週間程度)
- 対象者 主に在宅の独居、要支援認定者及び心配な高齢者など
- 実施方法 自転車等で訪問、電話確認など
(民生委員等による間接確認を一部含む)

在宅要援護者の必要物資給与及び安否確認の対応状況

平成23年3月31日現在

- ・ 民生委員や地域包括支援センターを中心に在宅要援護者に対する生活必需物資及び安否確認を実施
- ・ 3月31日まで実施したなかで、民生委員等からの連絡により62件に対し物資給与等の対応をした。

番号	方部	対応件数	主な給与物資	特記事項
1	第一	9	ペットボトル水 食事 トイレ用ペーパー	
2	第二	5	介護用オムツ 布団 ティッシュペーパー	高齢者世帯に浜通りから高齢者が避難 視覚障害者寝たきり状態の世帯
3	第三	4	食品3日分 布団 ポータブルトイレ 下着	高齢者世帯に浜通りから高齢者が避難
4	第四	1	食品3日分	障がい者世帯で電気機器壊れたまま
5	第五	0	該当なし	
6	第六	4	食品3日分 風邪薬 トイレ用ペーパー	高齢者世帯に浜通りから高齢者が避難 食材宅配業者が来ない
7	渡利	0	該当なし	
8	杉妻	1	食料品(缶詰)	高齢者一人暮らし
9	蓬萊	0	該当なし	
10	清水	0	該当なし	
11	東部	3	トイレ用ペーパー カイロ	
12	鎌田	13		
13	瀬上		食品 介護用オムツ トイレ用ペーパー 毛布ほか	
14	余目			
15	笹谷	14	食品 介護用オムツ 風邪薬 毛布 布団ほか	
16	大笹生			
17	吉井田	0	該当なし	
18	西	0	該当なし	
19	土湯	0	該当なし	
20	大波	0	該当なし	
21	立子山	3	食料品(缶詰) 介護用オムツ	高齢者世帯 食材配達業者が来ない
22	飯坂	4	食事3日分 介護用オムツ	買い物をしてくれるヘルパーが訪問できない状態がある
23	松川	0	該当なし	
24	信夫	1	食事3日分	高齢者一人暮らし
25	吾妻	0	該当なし	
26	飯野	0	該当なし	
	計	62		

(2) 障がい者への対応

障がい福祉課

ア 震災発生直後(～3/18)

- ① 地震発生直後は、障がい福祉課所管の公の施設である「福島市肢体不自由児通園療育センター（現福島市こども発達支援センター）」及び「腰の浜会館」の被害状況の確認をした。
両施設とも目視による点検では、壁等にクラックが見られるものの大きな被害は見られなかった。
- ② 市内全ての障がい者関係の通所・入所施設及びヘルパー派遣事業所に対し、利用者の安否確認を行った。この結果、利用者の安全が確認できた。
- ③ 次に、上記通所・入所施設に施設建物の被害状況、食糧の備蓄状況（入所施設のみ）を確認し、同時に入所施設で避難者の受入れが可能かどうか併せて確認した。

イ (3/19～)

- ① 障がい福祉関係各事業所から極めてガソリンの入手が困難となり、業務ができないという訴えがあった。特にヘルパー派遣事業所からは利用者宅を回れない、職員が出勤できないとの内容が多数寄せられた。

- ② 上記を受け、福島県災害対策本部に対して、ヘルパー車等を緊急車両とし、当該車両への優先給油を要望した。これは、警察署から、GSでの優先給油のために緊急車両を認めるわけではないとの指導があつて実現しなかった。
- ③ 4/1 相談支援事業者（福島市社会福祉協議会、清心荘、ひびき、こじか「子どもの家」）、県北障害者就業・生活支援センター及び障がい福祉課により障がい者の被災状況や避難状況等の情報共有を図った。
- ④ 上記打合せで、福島市内の各避難所（広域を含む。）を訪問し、避難所職員等から聴き取りを行うとともに障がい者の相談窓口を紹介するポスターを掲示し、被災障がい者に対する相談支援等の対応にあたった。
- ⑤ 4/12 相談支援事業者第2回打合せ（市社協、清心荘、ひびき、こじか、県北障害者就業・生活支援センター、相双管内相談支援事業所2箇所）。前回打合せを受けての避難所の巡回結果及び相双地区障がい者関係事業所などの避難状況等の説明があつた。
- ⑥ 4/26 相談支援事業者第3回打合せ（清心荘、市社協、ひびき、こじか、県北障害者就業・生活支援センター）。前回以降の相談状況の報告
- ⑦ 5/17 相談支援事業者第4回打合せ（清心荘、市社協、ひびき、こじか、県北障害者就業・生活支援センター）。相談状況の報告

ウ 原発避難者特例法による障がい福祉サービスの提供等

- ① （7/13）福島市内の仮設住宅では、浪江町、双葉町等から多くの住民が避難生活を送っていることから、これら住民のなかで障がい福祉サービスを利用していた者等の情報提供を浪江、双葉両町の障がい福祉担当に依頼した。
- ② （H24.2/10）浪江町障害福祉担当者来庁、浪江町から福島市内へは10名程度の障がい福祉サービス利用者が避難している模様で、近々情報提供をしたいとのこと。
- ③ 浪江、双葉町を始め避難元市町村としては、サービスの支給決定等の事務手続は避難元自治体で行って、避難先での利用事業所の調整等を避難先自治体で担ってほしいという意向

エ 聴覚障がい者への支援（障がい福祉課配置の専任手話通訳者の業務）

- ① 震災直後～H24.3月

地震発生直後は、通信網が使えなかったことから、近場のろう者については自転車で回りながら安否確認と必要な支援（避難所の案内、他）を行う。市役所庁舎が避難所となり自主避難したろう夫婦が1組いた。また原発事故発生時、小さな子供を抱えたらう夫婦がテレビの報道内容が音声のみで情報が理解できないため、ガソリン不足の中来庁、報道内容の手話通訳を行い情報提供。併せて、福島市管内で実施している各種情報（給水など）も提供する。その他多数のろう市民も音声のみの情報提供が多かったことから情報がなかなか入らず、手話通訳を求め多数来庁されそれぞれに情報提供を行った。

福島市民ろう者、市登録手話通訳者の安否確認については個人の携帯、障がい福祉課職員のパソコンを借りパソコンメールを活用しながら確認したが、普段、市のサービスを利用しないろう者については連絡を取れない方がいた。また、福島県聴覚障害者協会と連携しながら手話関係者（ろう者、手話通訳者他）の安否情報を共有しながら業務を行った。

震災後2日目に公用車が使用可能となり、市内遠方の高齢ろう者宅を中心に家庭訪問。公営住宅に入居している1組のろう夫婦が周りの住民が皆避難してしまい取り残されていた。そこで避難の準備を一緒に手伝い近くの支所に避難するよう支援をした。

携帯メールを通じて市内各地の避難所に避難しているろう者（数名）から「音声による情報提供しかなく何を言っているのか分からない。」という訴えが届く。障がい福祉課長からこの旨を市災害対策本部へ申し入れた。（その後、ホワイトボードや紙を使用するなど改善された避難所があったと聞く。）

3/11～13（金、土、日）の変則勤務を含め市役所で業務。ろうあ者に大きな被害が確認されず、被災による手話通訳者依頼や支援などの救援要請は特になく（避難所に何人かのろう者がいたようだ）、1、2週間は、専任手話通訳者の2人の内1人が自転車等で数箇所安否確認、また庁内待機し窓口・FAX対応。（4～5人のみ）

震災後 1 週間は、通訳派遣が全てキャンセルになったが、2 週目から各所で病院の診療が再開されたことで、手話通訳依頼が次々と入ってくる状況。3 週目あたりは通常の手話通訳者派遣業務、4 月中旬から罹災証明発行、原発に関わる問合せ等の窓口対応を行う。

② 平成 24 年度～

原発事故関連の被害が深刻化するなかで、聴力障害者会から手話関係者に対して原発講演会を行いたいということで、中央学習センターの手話サークルの場に登録手話通訳者を派遣した。

市役所内では通常の手話通訳業務の他に線量計貸出し、放射能相談、東電賠償、県民健康調査、甲状腺検査、ホールボディカウンター検査、自宅解体など震災や原発事故関係の相談で来庁された方々へ手話通訳対応。

放射線総合対策課から依頼を受け、対象者の出席が確認された除染についての住民説明会や宅地除染作業に係るモニタリング調査などへの手話通訳者派遣業務を実施。H25.1 月現在 11 件。

(3) 高齢者への対応

長寿福祉課

地域包括支援センター

高齢者の安否確認等については、別紙1～5のとおり

被害調査の活動状況(高齢者安否確認等) 長寿福祉課

別紙1

【震災直後】

項 目	対 市 民	対 広 域 避 難 者	添付資料(ファイル名)
安否確認	・地域包括支援センターへ最優先事項として地域の高齢者の安否確認指示(※3/11-3/17 7,892名安否確認) ・食の自立支援事業(弁当配達と安否確認)の利用者(一人暮らしや高齢者のみ世帯)の配達業者による安否確認 ・遠方の親族より安否確認依頼→訪問		●「地域包括支援センターの震災対応状況について(H23.3.31)」 - 別紙2
要援護者への対応	・近隣住民より要援護高齢者の対応依頼→訪問 必要時医療機関受診・避難所へ誘導 ・避難所より要援護高齢者の対応依頼→状態確認 必要時医療機関搬送・施設入所調整 ・他課より要援護高齢者の対応依頼→状態確認 必要時医療機関搬送・施設入所調整 ・特別養護老人ホームの緊急時受入可能人数把握 ・要援護高齢者の緊急的対応について介護保険事業所支援・調整 ・介護保険事業所に対し緊急保護のための受入協力依頼・調整	・避難所より要援護高齢者の対応依頼→状態確認 必要時医療機関搬送・施設入所調整 ・他課より要援護高齢者の対応依頼→状態確認 必要時医療機関搬送・施設入所調整 ・特別養護老人ホームの緊急時受入可能人数把握 ・要援護高齢者の緊急的対応について介護保険事業所支援・調整 ・介護保険事業所に対し緊急保護のための受入協力依頼・調整	●「地震対応」(～3/18まで一部記録有)(別紙省略) ●「広域避難者対応状況H23.4.5」 - 別紙3
避難所運営	・保健福祉センター避難所の運営協力・相談窓口設置 ・保健福祉センター1階デイサービスセンターを要介護者のための避難所とし、各避難所から対象者を受け入れ対応	・蓬萊小学校、青少年会館の避難所・在庫管理の運営支援	
福祉施設等への物資優先確保調整	・福祉施設へ、主食、副食品、燃料(ガソリン等)の優先確保調査 福祉施設:特別養護老人ホーム(17)、介護老人保健施設(12)、認知症対応型グループホーム(26)、有料老人ホーム(特定施設)(4)、養護老人ホーム(2)、障がい者福祉施設(6)、児童福祉施設) ・JA米、福島青年会議所(米、大人用オムツ等)、JA青果(野菜、果物など)の提供		●福島市青年会議所配布実績について(平成23年3月20日、21日) - 別紙4
在宅高齢者への支援	・アルファ米(即席ごはん)を地域包括支援センターを通じて食糧確保が困難な在宅高齢者へ配付(アルファ米 100袋/センター、19包括へ、237人の在宅高齢者へ配付) ・生活支援・相談(一3/31)件数 2,165件 ・在宅福祉サービス提供の実施状況調査(継続実施・再開の時期の提示)→在宅サービスの提供		●「地域包括支援センターの震災対応状況について(安否確認、生活支援・相談。即席ご飯配布)」 - 別紙5

地域包括支援センターの震災対応状況について

平成 23 年 3 月 11 日の東北太平洋沖地震発生から 3 月 31 日までの地域包括支援センター（全 19 センター）の震災対応状況は次のとおりです。

1 在宅高齢者等の安否確認状況について

- 総 件 数 : 7, 8 9 2 人
- 時 期 : 平成 23 年 3 月 11 日～17 日頃（約 1 週間程度）
- 対 象 者 : おもに在宅の独居、要支援認定者及び心配な高齢者など
- 実施方法 : 自転車等での訪問、電話確認など
（民生委員等による間接確認を一部含む）

2 生活相談・支援について

- 総 件 数 : 2, 1 6 5 件
- 時 期 : 平成 23 年 3 月 11 日～3 月 31 日
- 内 容 : 相談（健康、住居、介護サービス、避難、物資不足）
支援（施設入所、医療の仲介、物資提供、地域情報発信）
アルファ米（即席ごはん）の配付（5 0 1 個、2 3 7 人）

3 広域避難者支援について

- 内 容 : 介護認定申請支援、介護サービスの調整、施設入所支援、
避難所での体操指導や健康相談など

4 今後の対応

引続き、民生委員、町内会や地区社会福祉協議会とともに担当地区の在宅高齢者の生活支援を中心に活動予定であるが、原発問題により家に閉じこもりがちな高齢者の増大が予想されるため、生活不活発病などの予防が必要となる。

また、市外への転出なども増えているため、その情報収集。

広域避難者対応状況

別紙3

平成23年4月5日

◆広域

施設種別		受付月日	男女別	介護度	市町村名	避難所/自宅別	施 設 名	そ の 他
特別養護老人ホーム	1	3月14日	女	3	いわき市	保健福祉センター	ロングライフ	
	2	3月14日	男	5	南相馬市	DRへりで医大HP	あづまの郷	DRへりで搬送
	3	3月15日	女	2or3	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	4	3月15日	男	2or3	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	5	3月15日	女	1	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	6	3月15日	女	1	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	7	3月15日	男	2or3	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	8	3月15日	男	5	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	9	3月15日	男	2or3	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	10	3月15日	女	1	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	11	3月15日	女	支2	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	12	3月15日	女	2	南相馬市	原町会館	まちなか宝生園	
	13	3月15日	男	3	浪江町	あづまの郷	あづまの郷	
	14	3月15日	女	未	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	15	3月15日	女	未	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	16	3月15日	男	2	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	17	3月15日	男	未	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	18	3月15日	男	未	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	19	3月15日	男	障がい2	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	20	3月15日	男	障がい2	南相馬市	原町会館	あづまの郷	
	21	3月16日	男	3	南相馬市	蓬萊中	ひまわり苑	
	22	3月16日	男	2or3	浪江町	あづまの郷	あづまの郷	
	23	3月16日	女	2	浪江町	あづまの郷	あづまの郷	
	24	3月17日	女	4	浪江町	あづま運動公園	聖愛ガーデン	
	25	3月17日	女	不明	浪江町	あづま運動公園～長根宅	ロングライフ	
	26	3月18日	女	3	南相馬市	市内孫宅	あづまの郷	
	27	3月19日	男	4	浪江町	市内息子宅	信夫の里	
	28	3月19日	女	1	南相馬市	市内娘宅	さわやかアイリス	
	29	3月19日	男	3	南相馬市	飯野体育館	ひまわり苑	
	30	3月20日	女	2	南相馬市	福島商業高校	ハッピー愛ランド	
	31	3月20日	男	3	飯舘村	市内娘宅	はなしのぶ	
	32	3月20日	女	4	南相馬市	特養くにみの里	信夫の里	
	33	3月22日	女	4	南相馬市	三男宅(森合)	陽光園	
	34	3月22日	男	5	南相馬市	親戚宅(渡利)、現在わたりHP入院	はなしのぶ	
	35	3月22日	女	5	南相馬市	パルセ飯坂	ハッピー愛ランド	
	36	3月29日	女	1	南相馬市	親戚宅(伊達市)	陽光園	
	37	3月31日	男	3	南相馬市	親戚宅(伊達市)	陽光園	
	38	4月4日	男	3	南相馬市	長男宅(霞町)	ロングライフ	※入所予定
老人保健施設	39	3月15日	男	なし	双葉町	福島北高校	オリーブの郷	認知症状強い
	40	3月17日	男		浪江町	南向台小	南東北リハビリ福島	
	41	3月19日	男	4	南相馬市	市内孫宅	ケアタウンひまわり	
	42	3月20日	女	3	南相馬市	福島テルサ	オリーブの郷	
	43	3月20日	男	4	浪江町	東邦銀行 研修センター	エルダーランド	
	44	3月25日	男	5	南相馬市	自宅(南相馬市)	エルダーランド	
	45	3月30日	男	2	浪江町	浪江町	にじのまち	
GH	46	3月19日	女	3	富岡町	枅記念病院入院中	あったか鳥谷野	

◆福島市

平成23年4月5日現在

施設種別	受付月日	男女別	介護度	市町村名	避難所/自宅別	施 設 名	そ の 他	
特別養護老人ホーム	1	3月14日	女	3	福島市	飯坂支所	まちなか宝生園	3/15～23あづまの郷
	2	3月14日	男	3	福島市	杉妻学習センター	ひまわり苑	
	3	3月14日	男	5	福島市	橘高校	あづまの郷	
	4	3月14日	女	障がい1	福島市	福祉C1Fデイ	あづまの郷	
	5	3月15日	男	5	福島市	集会所	ひまわり苑	
	6	3月15日	男	要介護5	福島市	南循環器病院日集会所	ひまわり苑	
	7	3月16日	女	5	福島市	自宅	みず和の郷	
	8	3月18日	女	支2	福島市	自宅	ひまわり苑	
	9	3月19日	女	2	福島市	福祉C1Fデイ	陽光園	
	10	3月22日	男	4	福島市	息子宅(郡山市)	ハッピー愛ランド	
老健	11	3月17日	男	3	福島市	福祉C1Fデイ	南東北病院	
G H	12	3月14日	男	未	福島市	橘高校→福祉C1Fデイ	方木田	
	13	3月14日	女	不明	福島市	橘高校→福祉C1Fデイ	方木田	
	14	3月17日	男	要介護2	福島市	福島市丸子【娘宅】	あったかいごとの	
	15	3月19日	女	4	福島市	福祉C1Fデイ	方木田	
	16	3月19日	女	支2	福島市	福祉C1Fデイ	方木田	
養護老人ホーム	17	3月12日	女	2	福島市	福祉C1Fデイ	福島恵風園	
	18	3月13日	女	1	福島市	アリバーレ宝生園	恵風園	
	19	3月14日	男	2	福島市	橘高校→福祉C1Fデイ	緑光園	
	20	3月14日	女	4	福島市	橘高校→福祉C1Fデイ	緑光園	
	21	3月24日	女	未	福島市	パルセ飯坂	福島恵風園	

◆福島青年会議所配布実績について(3月20日、21日)

別紙4

H23.3.22

区分			事業所名称	米 kg	テーブ 止大人 用おむ つ(組)	紙パント (包)	尿パット (枚)	トイレッ トペー パー (個)	パン (斤)	カップ 麺(箱)	ジャム (個)			
障がい			けやきの村	要望	180									
				実績	180									
			福島おおなみ学園	要望	60									
				実績	75									
児童			福島愛育園	要望	600									
				実績	600									
高齢者			特養	ハッピー愛ランド (短期・ケアハウス含む)	要望	300	3,000		300					
					実績	300	10箱				13			
				特別養護老人ホーム ロング・ライフ	要望	70	500		1,400					
					実績	140	2箱			96	36	10	12	
				社会福祉法人多宝会 (まちなか宝生園等)	要望		320							
					実績	45	13箱				108	14	72	
				特別養護老人ホーム 生愛ガーデン	要望	60								
					実績	70								
			老健	介護老人保健施設 エルダーランド	要望		1,000			500				
					実績	20	2箱			96	36	10	12	
				介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセン ター	要望	150	700	14	2,500					
					実績	150								
				介護老人保健施設 敬愛シニアガーデン卸町	要望		200		500					
					実績	130	2箱				54	10	24	
				グループホーム	グループホーム ハートピア	要望					126			
						実績					96	36	5	12
			グループホーム みなみふくしま		要望	30	240	20	500					
					実績	30								
			グループホーム 生愛レジデンス		要望	30								
					実績	30								
			敬愛シニアガーデン桜堤		要望		100		200					
					実績	40	3箱				10			
			グループホーム あったかいご 方木田	要望										
				実績										
			特定			メーブルハイム苑華	要望	150						
							実績	150						
合計				要望	1,630	6,060	34	5,100	926	0	0			
				実績	1,960	32箱			288	270	72	132		

別紙 5

地域包括支援センターの震災対応状況

<長寿福祉課:H23.3.31>

地域包括支援センターで実施した高齢者等の安否確認、生活相談及び即席ごはんの配付状況は下表のとおりです。

NO	包括名	安否確認 (件)	生活支援・相談 (件)	即席ごはん配布		特 記 事 項
				(個)	(人)	
1	中 央	1,255	132	27	12	広域避難の知的障がい者への支援、物資調達支援
2	渡 利	200	203	0	0	広域避難者の介護サービス調整、医療の仲介
3	南	380	296	20	10	広域避難者の施設入所支援
4	清水東	513	64	78	38	
5	清水西	513	64	78	38	広域避難者の施設入所支援
6	信 陵	79	119	1	1	
7	北信東	184	149	40	8	広域避難者の介護サービス調整、物資調達支援
8	第三・東部	870	160	30	10	広域避難者の相談
9	北信西	216	20	30	4	
10	清明・吉井田	201	210	0	0	広域避難者の施設入所支援
11	西 部	65	50	0	0	広域避難者の相談多数
12	飯坂南	44	18	50	16	広域避難所に出向いての健康相談
13	飯坂北	350	94	9	28	
14	飯坂東	197	112	10	3	
15	松 川	100	30	3	1	
16	信 夫	95	25	100	21	広域避難者の介護サービス調整、施設入所支援
17	吾妻東	150	56	22	46	
18	吾妻西	580	290	3	1	広域避難者の介護サービス調整、物資調達支援
19	立子山・飯野	1,900	73	0	0	広域避難者の介護サービス調整
計		7,892	2,165	501	237	

○安否確認…訪問及び電話での直接確認と民生委員、町内会、サービス事業所等と連携しての間接確認件数(独居高齢者等を中心に)
(民生委員、町内会、サービス事業所を通じての安否確認数は具体的な数値を把握していないセンターは掲載していない)

○生活相談・支援…訪問や電話による相談(健康、住居、避難など)や介護サービス・医療の調整及び物資調達などの支援件数

(4) 保健師活動

健康推進課

ア 震災当日の保健師の対応

❖地震時＝保健福祉センターは4か月児健診実施中。来所者の安全確保と避難誘導に努め、無事避難させることができた。

その他、各地区で開催の健康教室や家庭訪問中に地震に遭遇した。

❖避難所対応＝停電、家が壊れて住めない、余震への不安などから市民が支所や学習センター等に避難してきた。保健福祉センターへも700人の避難者が来所し、急遽避難所として開所、受け入れした。

飯坂支所・学習センター、信陵学習センター、飯野学習センター、蓬萊小、蓬萊中から巡回対応の要請あり。実際は、保健師も宿直し要支援者（乳幼児をもつ家族、障害者、高齢者等）へ対応した。

- 対応内容
- ・避難者の健康状態の見守り
 - ・体調不良者の対応
 - ・要支援者のトイレ介助
 - ・感染症予防のための衛生管理等
 - ・蓬萊は土砂崩れであさひ台が全世帯避難。不安に寄り添う。

❖傷病者の相談対応＝保健福祉センターには、市内各地から傷病者の相談（具合が悪いがどうしたらよいかなど）が多く寄せられたが、夜間診療所が当日から開所していたので、紹介することができた。

イ 震災翌日以降

市内避難所多数の為、保健師巡回相談対応へ（4～5名でチーム編成）

❖福島市民への対応

- ① 停電・断水の解除となった地区から自宅へ戻っていった。
（あさひ台住民は2次避難所へ移動までの約2か月間、蓬萊小体育館～蓬萊学習センターに滞在していた）
- ② インフルエンザ・ノロウイルス等感染症予防、エコノミー症候群予防への対応。
- ③ 要支援者（寝たきり・認知症・障がい者等）を地域包括支援センター・長寿福祉課へ連絡し個室等確保できるところへ依頼。近隣の医療機関へ往診・受診受け入れ依頼。

❖保健福祉センターでの対応

- ① 3月20日に安定ヨウ素剤が市に届き、配付準備をしたが、その後国や県からの指示がなく、配付には至らなかった。
- ② 地下に非常用貯水があるため、はじめは水道を自由に使っていたが、使用量が底をつく勢いだったため、トイレをはじめ水の使用を制限した。センターには夜間診療所があるため、1日にかなりの水を必要とした（医療用水）。消防に要請し、給水車で水を運んでもらった。
トイレの水は、祓川からポンプでくみ出してバケツで運んで活用した。仮設トイレを3基ほど屋外へ設置してもらった。屋内も屋外も使用状況は悪く、つまりを起こしたりしていたため、職員が対応に追われた。
- ③ 医療機関関係の問い合わせやスクリーニング等放射線の検査関係の問い合わせが多かった。避難所運営中は、避難者の安否確認の電話も多かった。
- ④ センター内避難者への対応
 - ・主に問い合わせの電話対応、ライフラインの確保、避難者の食事等の分配、クレーム対応など。連絡担当、食事担当、各部屋の監視担当などに分かれて対応した。
 - ・基本的には8時から20時、20時から8時の2交代勤務で運営にあたった。
（勤務体制が確立するまで時間がかかり、何日も泊りがけで勤務する職員もいた。）
 - ・保健センターの構造上、階が分かれているので管理運営は目が届きにくく大変であった。

- ・ 禁止事項であるにもかかわらず飲酒する人、タバコを吸う人がいて職員も対応が大変だった。
- ・ 閉鎖するときに自宅に戻りたくない市民がいて対応が厳しかった。
- ・ 介護の必要な方、夜間徘徊する方などは、社会福祉協議会職員が対応。当課職員だけでは対応しきれなかった。高齢者・障害者などが多かった。

❖ 広域避難者対応

- ① 市民が自宅へ戻った後に、各避難所へ相双地区からの避難者が増えていった。
元々医大病院が主治医のがん患者・心疾患・認知症・寝たきりのケース等要支援者が、ガソリンが無い為国道 114 号線の延長地区の避難所へ多く集まってきた。
放射線からの避難、津波で家・家族がなくなった方の両方あり。両方の不安と喪失感への対応となった。
- ② 避難所周辺の医療機関・処方箋薬局へ受け入れ依頼し、地理がわからない広域避難者向けに、避難所入り口付近に医療機関の地図等周知、日々かわる最新情報明記（センター内勤者が情報集約対応）。
初日～数日間は医療不足であった。薬を持っていない方、特に精神疾患の方は切実であった。糖尿病治療のためのインシュリンや器具のない方もいた。
- ③ 集団生活が無理な認知症・寝たきり・障がい者・白血病患者、放射線からの被ばくを避ける為妊婦等を周辺の施設へ入所依頼した。
- ④ 2 次避難所へ移動までの 2 か月間は巡回相談継続した。
当課職員一同、長寿福祉課・避難所従事の市職員・各地域包括支援センター・居宅事業所・地域の医療機関・薬局等横断的な連携のもと災害対応にあたった。

ウ 放射線災害への対応 現在 (H24. 8. 29) まで

放射線についての知識がほとんど無い状況での事故発生であったため、市民（特に乳幼児を持つ親）の不安に対して何をすればいいか、試行錯誤で対応せざる得ない状況であった。

市民は、情報が錯綜し不安が増し、その不安を苦情や要求など様々な形で訴えてきた。

乳幼児健診などの母子保健事業で出会った母親たちは、強い心配と、放射線に対する認識・見解が、友人間、夫婦間、家族間でも分かれていることでの心理的に孤立した状態で子育てしていた。

その状況から、正しい情報の提供とこころのケアの必要性を強く感じ、市医師会小児科医師や福島県臨床心理士会と協力して、平成 23 年秋から「放射線と子どもの健康講演会」、冬からは親たちの語り合いの場「子育てカフェ」や「子育て座談会」を実施した。

講演会参加者は、「子どもへの影響について」真摯に受講し、講演終了後も小児科医師の前に並び一人一人質問していた。参加者の 9 割からは「このまま福島で暮らしていいのだと思えて安心した」「放射線にこだわらないで健康に暮らして生きたい」等の感想が聞かれた。

また、座談会では、「初めて放射線のことを話せた」「自分だけがストレスを感じているのではないとわかった」という意見が多く聞かれ参加してよかったとの感想が聞かれた。

平成 24 年度は、1 歳 6 か月児健診に心理士を配置して個別相談も実施、講演会と座談会も継続して実施している。しかし、講演会や座談会に来たときは「安心」と感じて、家に戻ると「不安」になる、または、実際はペットボトルの水を使っている、子どもを外に出せない、福島県産野菜や牛乳は飲ませない等の生活をしているなど、「安心」と「不安」を行き戻りしながら子育てしている状況である。

エ 活動の記録

(ア) 市民への保健活動概要

別紙 1 を参照

(イ) 避難所巡回・健康相談等の保健師活動

別紙 2-1 (平成 23 年 3/11～17)

〃 2-2 (平成 23 年 3/18～31)

〃 2-3 (平成 23 年 4/1～26) を参照

(ウ) 避難所巡回・健康相談対応項目別件数

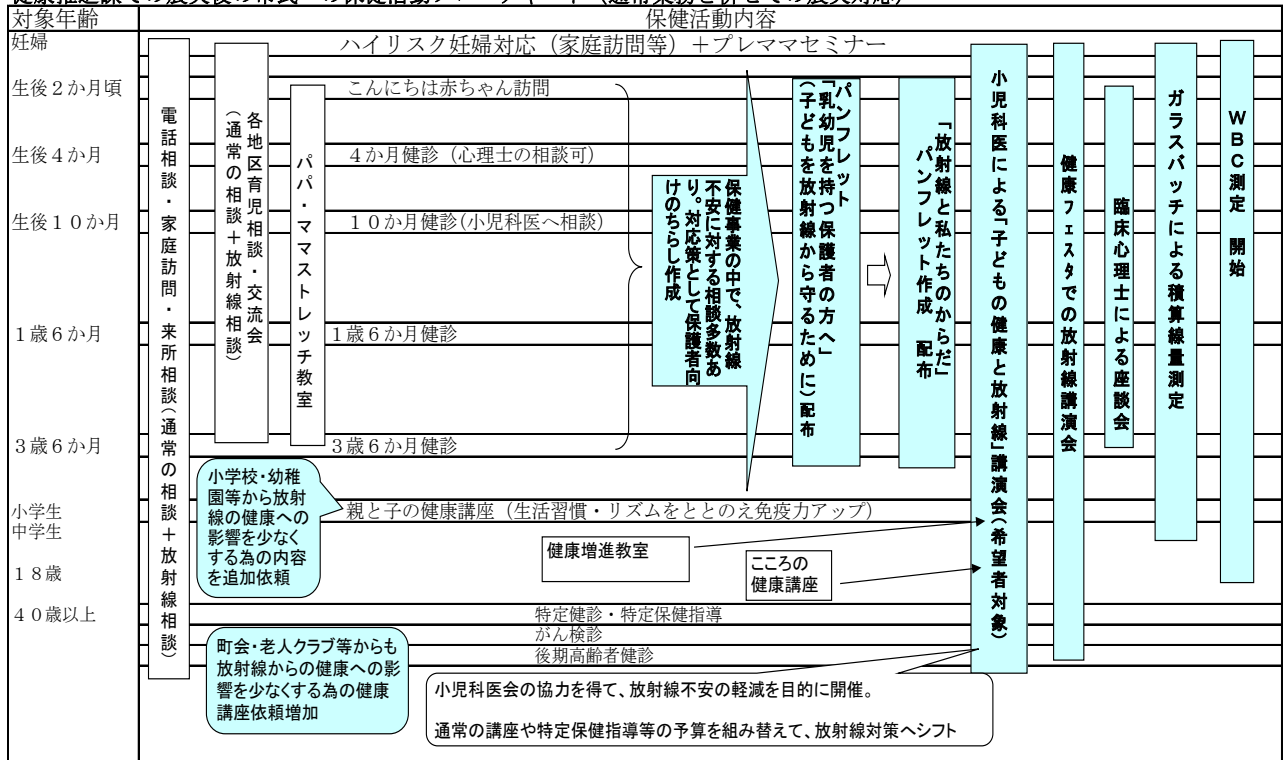
別紙 3 を参照

《別紙1》

福島市健康推進課での震災後の市民への保健活動概要

月	状況	健康推進課	保健師業務・状況	対応
H23.3月	東日本大震災発生	避難所対応	広域避難者への対応	健康相談、要支援者発見・対応
4月	各避難所から2次避難所へ移り始まる（広域）	3月避難所対応でストップしていた市民への通常業務再開へ	3月の該当者含めた乳幼児健康診査、こんにちは赤ちゃん訪問の再開	・乳幼児健康診査当者の増加 ・母親へ震災時の状況確認（精神的支援・共感）
5月	飯舘村・川俣町の一部が計画的避難区域へ 放射線に関する報道多数 学習センター使用制限（避難所対応のため）	各地区で実施していた「育児相談会・交流会」を保健センターで実施へ。	健診事後フォローケースへも対応。震災時の状況等確認する。放射線の相談多数	・放射線に対する相談→パンフレット作成へ ・子育て支援センター等遊びにいけないところを紹介 ・避難している親子あり。参加件数は減っていたが、個別に丁寧に対応
6～7月	議会 飯舘村役場が飯野出張所へ学習センターが使用再開へ 県小児科医師会にて放射線講演会開催 飯舘村、浪江町等の住民が福島市内の2次避難所（旅館）、仮設住宅、借り上げ住宅へ	市民健診（6月～10月） 各地区にて学習センターでの育児相談会・交流会再開へ	育児相談会にて、震災後の精神的支援・放射線に関する相談対応	・保健師が、各放射線講演会に参加して情報収集
8月	小学校等除染のため夏休みが長期化、その間市外への避難者増 臨時議会 ガラスバッジによる外部被ばく検査事業開始（小中学校、幼稚園、保育所、乳幼児、妊婦）	乳幼児健診にて震災時の状況・今後への要望アンケート実施 市内でも放射線量の高い地域で生活する親子への対策検討 心理士による座談会実施 放射線パンフレットの作成	・乳幼児健診で広域避難者の対応 ・福島市から他市町村へ避難する母子増える（依頼書発行）。 ・市内2地区の地区育児相談会にて、臨床心理士会の座談会実施 ・情報提供として、こんにちは赤ちゃん訪問、乳幼児健診、育児相談会等でパンフレット配布 ・親のストレス軽減を図る ・ガラスバッジ実施関連業務	・精神保健センター主催の臨床心理士の講演参加し、今後の対応検討へ ・先行2地区での臨床心理士座談会を今後他地区へ ・放射線から子どもを守る日常生活のポイントを周知 ・からだをほぐすことで、心もほぐれ、その後パンフレットで放射線の説明をし、親子の精神的な安定へ
9月	議会	小児科医による講演会開催（～3月まで20回） 健康フェスタにて放射線に関する講演会（医師・栄養士・運動講師）開催	・放射線に関する情報提供として講演会等の開催	・線量が高い地区より講演会開始 各地区18会場開催へ
10月	放射線健康管理室設置 ガラスバッジ回収・結果送付	こころの健康講座開催	ガラスバッジ関連業務	・ガラスバッジの結果についての問い合わせ殺到
11月		19歳から39歳の健診実施		
12月	ガラスバッジ回収 ・WBC測定開始			
1月	ガラスバッジ結果送付			

健康推進課での震災後の市民への保健活動フローチャート（通常業務と併せての震災対応）



《別紙 2-1》

福島市健康推進課 震災避難所巡回・健康相談等の保健師活動(平成23年3月11日～17日)

月日	災害状況と対応状況	巡回時状況と問題点	保健活動内容	関係機関の動き 誰が(どこが)何をどうした	今後に向けて
3月11日(金)		寒い避難所の環境 水・食糧不足	避難所を巡回し状況把握 信陵、蓬萊小(500人)、飯坂、 センター(700人)宿直、要支援者対	避難状況把握	避難状況把握 本部:避難者登録
12日(土)	2:45避難所74カ所6,910人避難 あさひ台団地(伏拝)80戸に避難指示 4:30被害状況: 建物倒壊、国道4号黒岩～伏拝交差 点・天神橋・鎌田大橋等通行止め。6カ 所火災発生鎮火。人的被害死亡0、け が15名 10:00避難所36カ所3,564人避難 市内全域断水。給水14カ所	・医療機関、内服薬の相談 【要支援事例】…緊急を要する事例！ ・統合失調症等精神科疾患を持つ者 ・寝たきりや認知症高齢者、脳卒中後遺症等の要介護者 ・糖尿病(インシュリン治療等)、高血圧等生活習慣病の者 ・ストマ(人工肛門)、在宅酸素、全盲等障がい、難病等の者 ・手術後まもない療養中の者 ・妊婦・産婦と乳児・疾患を持つ乳幼児等	巡回61カ所3,396人(要支援者対応 34件) 避難全員に声かけし健康状態確認 医療機関一覧、薬局一覧情報提供	民生委員による安否確認等 日赤炊き出し 大原医療センター:妊婦を緊急 入院、大原看学(教務と学生)避 難者を見守り支援 妊婦切迫流産→医大救急搬送 夜間診療所通常通り診療	巡回: 報告書、相談票 救護薬品、物品 情報資料 不足物資:紙オム ツ、ミルク、消毒 特殊物資: 療養ケア用品 緊急医療 避難所生活困難者
13日(日)	10:00避難所79カ所5,661人避難 停電14万7千戸→6万戸 市内全域断水。給水15カ所	3月11～17日の保健活動内容 【要支援事例への対応】 ・県北保健障害者支援チームと連携→県精神救急医療施設 ・介護を要する高齢者等は、長寿福祉課長寿支援係と連携し対応 (地域包括支援センター、ケアマネジャー、介護施設利用等) ・特に要治療者の保健指導、受診勧奨、医療連携 ・関係各課、関係機関との連携 ・地域民生委員等との連携 学校体育館の先生方の疲労 大 妊婦・乳児の生活環境問題 広域避難者は被ばくの不安 大	巡回23カ所2,006人(要支援対応38 件) 被ばくスクリーニング情報提供(県窓口・ 二本松男女共生センター・郡山総合 体育館)	緊急休日診療当番医通常通り	市医師会: 医療機関情報提供 早期の通常診療の 開始 緊急診療受け入れ
14日(月)	16:00避難所50カ所6,323人避難 災害時における金融措置(一人10万円 程度) 水不足による新規透析受け入れ困難 停電4万4千戸 ガンソリン不足、移動困難	広域避難者の増加。土地不 案内の為、医療機関・薬局の 説明に時間がかかる。 避難者の疲労、持病の悪化 内服薬持参無や薬の残が少 なく不安訴え増 要介護者の日常生活対応 (トイレ・マット等) 妊婦・乳幼児の生活環境問 題 心のケアが必要 食事摂取困難者(特別食 等) 人数の多さに正確な避難者 把握困難	巡回57カ所3,916人(要支援対応 127件) 医療情報提供 ・避難所周辺医療機関案内地図 ・診療可能な小児科・歯科一覧作成 避難所周辺の地域医療機関連携 エコノミー症候群予防:ストレッチ、散 歩、水分摂取の周知 挨拶、人と話をする事でストレス緩 和 衛生環境と意識改善。避難者でトイレ 清掃・水汲みボランティア分担実 施	人工透析医療機関 大原医療センター・済生会・福 島日赤・わたり(4カ所実施) 地域開業医の診療 ・飯野診療所松本医師定期巡回 ・蓬萊東内科透析患者送迎 ・おぎはら泌尿器科が広域の透 析者受け入れ 医大看護学部(結城)巡回協力 地域のボランティア(マッサージ)	人工透析医療確保 市医師会 地域開業医による 巡回 避難所の運営
15日(火)	8:00避難所48カ所8,495人避難ヒーク 16:00避難所48カ所7,621人避難 19:00市内測定放射能23.88マイクロシー ベルト (参考:測定地点平常値:0.04/時間) 県)市内の緊急被ばくスクリーニング開始 あづま総合運動公園・北高・県工3カ所	食事の変化、水分摂取不足 で便秘訴え増 紙オムツ不足(大人・子ども) 避難所内が落ち着いてきた 所と、長期化しストレス多くイ ライフ感がある所が見られる 感染性胃腸炎発症あり 指定以外の避難所は情報や 物資不足等あり、巡回対応 が難しい	巡回53カ所4,379人(要支援対応79 件) 当座の紙オムツ、ミルク配布 手指消毒、賞味期限切れ食品注意	現状把握のため市医師会(丹治 副会長・田嶋・佐藤医師)巡回 本部:物資調達、各避難所に配置 地域包括支援センター、ソーシャル ワーカー巡回 ひまわり園介護施設で高齢者・ 妊婦を送迎しデイサービス受入 れ 地域のボランティア JA女性部ボランティア・元保健 師、大原看学・地元ボランティア (傾聴)、美容院(シャンプー)	地域の多機能福祉 施設との連携 地域ボランティアの 円滑な活動
16日(水)	9:00避難所29カ所7,592人避難 給水17カ所+24時間給水10カ所 本部で帰宅困難・家屋全壊者にアン ケート実施 県)緊急被ばくスクリーニング(累計4カ所)	風邪症状訴え多く流行の兆 し 腰痛、便秘の訴え多い 水復旧未のトイレの衛生問 題	巡回34カ所4,460人(要支援対応73 件) 医療巡回のため、県との連絡調整	高校養護教諭:保健衛生管理 日赤医療チーム巡回 オストミー協会:ストマー用装具 提供(問:障がい福祉課) 地域開業医の診療 山家整形外科往診、患者送迎 地域のボランティア(整体師)	県北:医療巡回調 整 市:事例の情報提 供
17日(木)	9:00避難所40カ所6,927人避難 水道復旧約35%、約3万9千戸で使 用可 給水18カ所+24時間給水15カ所 「生活安定総合相談窓口」開設 15:00市内測定放射能13.40マイクロシー ベルト 「放射線について理解を深める講話」 医療生協わたり病院斎藤紀医師 コミュニティ放送FMボコ生中継 県)緊急被ばくスクリーニング(累計7カ所)	ルールを守れない避難者の トラブル ライフラインが徐々に復活し 取り残され感あり不安を訴え る	巡回35カ所3,663人(要支援対応 111件) 市医師会(丹治)巡回 日本糖尿病学会:インシュリン入 手に関する相談窓口(医大・日 赤)	横須賀共済病院医療チーム巡 回 医大小児科巡回(渡利学習C) 市医師会(丹治)巡回 日本糖尿病学会:インシュリン入 手に関する相談窓口(医大・日 赤)	

《別紙 2-2》

福島市健康推進課 震災避難所巡回・健康相談等の保健師活動(平成23年3月18日～31日)

月日	災害状況と対応状況	巡回時状況と問題点	保健活動内容	関係機関の動き 誰が(どこが)何をどうした	今後に向けて
18日(金)	9:00避難所37カ所6,099人避難 水道復旧約41%、約4万5千戸で使用可 給水19カ所+24時間給水23カ所 飯坂地区共同浴場一般開放(8カ所)。 飯坂温泉旅館で災害弱者受入検討(23日開始) (県)緊急被ばくスクリーニング(累計8カ所)	インフルエンザ発生 水道復旧し自宅に戻る人増 避難所が寒い所と暖かい食事が取れる所等格差あり	巡回避難所数33カ所2,934人(要支援者178件) 避難所にいる妊婦把握11名 被災妊産婦の受入れ先を調整→市営住宅(問:建築住宅課)	医療生協医療チーム巡回 医大内科、精神科医師巡回 県教育委員会スクールカウンセラー巡回 医大産科医局(妊婦の被爆検査、出産前後の母子の対応相談)	精神科疾患対応 子どもの心の健康
19日(土)	9:00避難所36カ所5,233人避難 水道復旧約50%、約5万6,200戸で使用可 給水21カ所+24時間給水17カ所 市立幼稚園、小・中学校、特別支援学校3月23日まで臨時休校。小学校卒業式中止 (県)緊急被ばくスクリーニング(累計18カ所)	水も出て環境向上 入浴外出者が増えている 避難者減で個人スペース確保ができています 避難者間の小さなトラブル、イライラ感心の相談増	巡回26カ所2,457人(要支援者139件) 県と被災産婦の受入れ調整→県女性のための支援センター、敬喜ホーム等へ	JMAT医療チーム巡回 わたり病院医師巡回 わたり病院食物アレルギー食品提供 市医師会:市内医療機関診療状況予定をホームページに掲載 地域ボランティア(介護福祉士が移送、Nsが血圧測定、近隣住民宅で入浴) 群馬附属病院被ばくスクリーニング巡回	アレルギー食 被災妊産婦の受け入れ施設
20日(日)	9:00避難所29カ所4,880人避難 水道復旧約80%、約8万8千戸で使用可 給水20カ所	インフルエンザ発生、隔離 体調不良、発熱、咳、風邪症状、嘔吐、下痢等訴え増 血圧測定希望者の増加 話を聞いてほしい方増加、一人の健康相談時間が長くなった	巡回26カ所1,791人(要支援者114件) 感染症の予防と対策	市医師会医療チーム巡回 にじのまち巡回リハビリ開始 緊急休日診療当番医通常通り休日(20・21日)歯科診療実施 特養施設で避難者の入浴送迎 地域ボランティア(マッサージ、入浴)	感染症対策
21日(月)	9:00避難所35カ所4,511人避難 水道復旧約91%、約10万1千戸で使用可 給水16カ所 市内の飲料水(水道水)環境放射能測定結果(県発表) 放射性ヨウ素23、放射性セシウムND…「この水は安全」 「福島原発事故の放射線健康リスク」長崎大学山下俊一教授、長崎大学高村昇教授 福島テレサ 500人来場(FMホコ放送)	インフルエンザ発生、隔離 体調不良、発熱、咳、風邪症状、嘔吐、下痢等訴え増 血圧測定希望者の増加 話を聞いてほしい方増加、一人の健康相談時間が長くなった	巡回23カ所1,986人(要支援者152件)	緊急休日診療当番医通常通り 避難当事者が「福島北高校ががんばろう会」設立、自主活動開始(炊き出し、掃除当番、健康づくり企画) ロータリー、婦人会、町内会等が支援 大原病院産婦人科巡回 地域ボランティア(接骨院・マッサージ、クリーニング店来所)	避難当事者の自主運営 ボランティア活動のあり方(請負い過ぎトラブルもあり)
22日(火)	9:00避難所31カ所4,319人避難 水道復旧約100% 安定供給まで24時間給水所設置	水痘1名別部屋隔離→ホテルへ	巡回21カ所1,688人(要支援者125件)	すずたけ歯科巡回 高校生ボランティア(子どもと遊び) 会場利用団体ボランティア 割安タクシーで温泉送迎	
23日(水)	9:00避難所30カ所4,184人避難 水道復旧約100% 安定供給まで24時間給水所設置		巡回17カ所1,381人(要支援者33件)	精神保健センター こころの健康相談巡回開始 あづま脳外科医療チーム巡回	心の健康
24日(木)	雇用促進住宅一時入居(問:市商業労政課) 福島県内産出ほうれん草等野菜摂取差し控えるよう国から指示 (県)緊急被ばくスクリーニング(累計19カ所)	インフルエンザ2名隔離→旅館へ 避難所食事が栄養摂取困難	巡回18カ所1,403人(要支援者137件) 巡回医療のための事例等情報提供	東京、静岡県薬剤師会巡回 日赤医療、慈恵医大チーム巡回開始 市医師会から小児科、地元開業医と薬局で巡回(好評) 県健康増進課(栄養管理補助食品)	特別食
25日(金)	15:00市内測定放射能4.03マイクロシーベルト 水道水環境放射能測定結果 放射性ヨウ素11、放射性セシウムND 被ばくスクリーニングはあづま体育館のみ	広域避難者に高血圧放置(200-100↑)で生活していた人が多い うつ病、不眠、「死にたい」訴え	巡回18カ所1,308人(要支援者110件) 治療に向け保健指導 専門医連携調整	市医師会から地元開業医巡回 内海メンタルクリニック往診(うつ病) ヘルシーランドNs巡回	うつ、自殺の予防
26日(土)	9:00避難所29カ所3,913人避難 避難所における就学手続き臨時窓口開設26日14カ所27日9カ所	津波で人命財産の喪失感、死ぬことを訴えるうつ状態	巡回17カ所1,272人(要支援者161件) 精神的支援、治療に向け保健指導 県精神保健センター連携	避難者「出来ることは自分達でやった方がいい」 地域ボランティア(中学生、ヨガ体操)、移動販売、ワゴン整体、土湯温泉送迎で入浴	
27日(日)	県)福島原発事故に伴う農産物等農業技術情報提供(問:県農林企画課) 水道水環境放射能測定結果 放射性ヨウ素15、放射性セシウムND		巡回15カ所1,170人(要支援者85件)	市医師会から地元開業医巡回 社協ボランティア(福祉手続き) 建築デザイナーボランティア	
28日(月)	震災被害で水道局(上町)が東庁舎へ移転	避難者も荷物運びや食事配達等積極的に動く人が増	巡回16カ所1,149人(要支援者120件)	理髪ボランティア 学習C利用サークルボランティア	
29日(火)	15:00市内測定放射能2.95マイクロシーベルト 水道水環境放射能測定結果 放射性ヨウ素10、放射性セシウムND	避難所の統廃合が進んでいる 大人は生活不安、子どもは学校に対する不安が大きい	巡回14カ所1,117人(要支援者73件) 健康増進課主催運動教室巡回開始	地元駐在さん巡回 地域ボランティア(理髪、ヨガ体操、自彊術)	
30日(水)	9:00避難所25カ所3,563人(市148浜3,415) 市本部より避難所閉鎖について説明会実施 本市に避難幼児の市立幼稚園入園募集 県「旅館・ホテル入所希望アンケート」配布		巡回10カ所1,010人(要支援者77件)	児童相談所スタッフ巡回 医大エコー検査巡回開始 ふれあいクリニック送迎バス運行	
31日(木)	ふくしま市政だより東北地方太平洋沖地震 連報版23号(最終)	避難所から県幹旋旅館へ移動増	巡回11カ所1,084人(要支援者79件) 毎日巡回から週3回(火・木・土)へ	医大小児科アンケート調査、口腔外科診察、大槻スリープクリニック巡回 助産師巡回	

《別紙 2-3》

福島市健康推進課 震災避難所巡回・健康相談等の保健師活動(平成23年4月1日～26日)

月日	災害状況と対応状況	巡回時状況と問題点	保健活動内容	関係機関の動き 誰が(どこが)何をどうした	今後に向けて
4月2日(土)	各避難所へボランティア団体・支援 機関増加 2次避難所への移動に関する 相談増加	近所からの差し入れで避難者 自身が調理開始したところ、 ヨガ体操実施したところ、 団子汁の差し入れあったところ と避難所によって動きあり。 人数多いところはパーテー ション要望・設置へ。	巡回12箇所1,041人(要支援者109人) 避難生活長期化により20代前後の 年代メンタル不調相談あり関係機関 紹介(入院へ) 長期化により血圧測定希望者・排便リ ズムの相談多い。 2次避難所への移動に伴い、病状や 介護度に応じた相談増加。 原発に対する怒りの声あり。	眼科巡回あり。 地域包括支援センター桃りんご体 操 好評。 避難所への警察巡回・移動交番 開始。 高齢者施設より入浴提供あり。 嚥下障害のケースへ往診あり。 避難所にて介護保険利用あり。 自衛隊音楽隊演奏あり。 市議員避難所巡回あり。	精神科へ紹介 2次避難所に関 する相談は所属 市町村へ
4月5日(火)	閉鎖避難所より移動者あり。 2次避難所(旅館)への移動あり。	ラーメン店が送迎付きで食事提 供 避難所の子どもの遊び相手にと 地区の方が子どもを連れ来所	巡回10箇所935人(要支援66件) 妊婦悪阻悪化し入院へ	地元小児科医師会巡回開始 慈恵医大チーム巡回あり 地元医師会医師+薬剤師巡回あ り	地元小児科医 との日頃からの 連携 多数入る支援 チームと県・ 市の調整
【要支援事例】 ・統合失調症等精神科疾患を持つ者→長期化により悪化。入院・外来通院へ ・寝たきりや認知症高齢者、脳卒中後遺症等の要支援者介護保険で、デイサービス・ショートステイ利用へ ・妊婦母子健康手帳交付へ					
4月7日(木)	2次避難所へ移動者増加により避 難所の人数減。 小中学校への通学昨日より開始	各医療機関等からの巡回支援 増	巡回11箇所879人(要支援73件) 発達障害ケース対応	横浜市薬剤師会+医大性差医療 センター小宮医師巡回あり 気孔・エステ等ボランティアあり	
4月9日(土)	2次避難所(旅館)への移動者 ますます増加 相双地区から小中学校通学者 なかなか馴染めず	各医療機関等からの巡回支援 増	巡回11箇所627人(要支援74件)	福島県出身者で鹿児島住民票の 保健師ボランティアあり(4月16日ま で)。 滋賀県より心のケア巡回あり 地区整形外科医巡回あり 南相馬市医療チーム巡回あり 地区つるし雛・パッチワーク等趣 味のボランティアが避難所にて講習 好評	
【4月の保健活動内容】 ・保健師の巡回は避難者の減少・医療ルートの確保・他県からの支援増加により火・木・土へ ・支援件数は減っているが、1ケースの支援時間は多くなる ・長崎県より支援保健師の応援が4月18日より開始 ・市保健師は通常業務開始+震災対応へ					
4月12日(火)	最大余震あり避難者増加した 避難所あり 浪江町民は猪苗代方面へ移動	最大余震のため市内の避難者 が 避難所へ。 マンション等戻れず避難所から 学校へ通学者あり	巡回11箇所539人(要支援35件) 医療チーム巡回時保健師把握ケース 申し送りへ	日赤青森チーム巡回あり	
4月14日(木)	市内あさひ台地区避難者へ説明 会 あり	日中気温が高くなり避難所から 外出してる方増加 避難所から会社通勤者も増加	巡回11箇所403人(要支援51件)	桜水クリニック避難所へ送迎バス 巡回	
4月16日(土)		要支援ケースの数は減って きているが、個々の支援時間は 多くなってきている	巡回11箇所387人(要支援58件)	避難所のある町内会とお花見交 流	
4月19日(火)	避難者の人数が減り、支援者が多 数入る	県を通じ長崎県派遣保健師チー ム2名巡回(広域避難所4箇所対 応) 前日に市保健師が長崎県保健 師巡回に同行し申し送り実施	巡回7箇所181人(要支援18件) 巡回4箇所125人(要支援5件)	県を通じ長崎県派遣保健師チー ム2名巡回 自立更生センターが送迎付きで入 浴支援開始	
4月21日(木)			巡回4箇所80人(要支援12件)		
4月23日(土)			巡回4箇所66人(要支援5件)		
4月26日(火)	今後避難所閉鎖のため市保健師 巡回は今回で終了 広域避難者を対象とした長崎県派 遣保健師巡回は継続へ		巡回4箇所81人(要支援4件)		

※ 4月から通常業務再開。各事業をとおり放射能不安に対する相談多数あり→放射能不安に対するH

《別紙 3》

避難所巡回・健康相談対応項目別件数(H23.3.12～H23.4.26)

対応日	避難所数		対象(状態・疾患など)延べ件数									対応総数	避難者数(延)	備考
	総数	巡回分	乳幼児	高齢者	妊産婦	単身者	心身障害	心のケア	要介護	感染症	その他			
3月12日	85	61	6	1	1	1	1	0	5	0	19	34	3,396	
3月13日	42	23	4	7	1	2	4	1	3	3	13	38	2,006	
3月14日	64	57	12	1	3	0	48	52	11	0	0	127	3,916	
3月15日	67	53	15	4	5	3	4	0	34	0	14	79	4,379	
3月16日	67	34	3	1	6	1	6	1	11	0	44	73	4,460	
3月17日	35	35	13	16	2	2	8	1	10	5	54	111	3,663	※1
3月18日	33	33	19	21	11	6	10	35	5	7	64	178	2,934	
3月19日	26	26	8	19	6	1	11	6	4	5	79	139	2,457	
3月20日	26	26	7	12	5	1	6	4	7	24	48	114	1,791	※2
3月21日	23	23	5	21	4	1	7	4	2	5	103	152	1,986	
3月22日	21	21	5	20	10	0	10	11	4	10	55	125	1,688	
3月23日	17	17	4	20	6	1	11	11	15	14	51	133	1,381	
3月24日	18	18	9	32	1	1	10	9	7	13	55	137	1,403	
3月25日	18	18	12	11	2	0	3	13	4	8	57	110	1,308	
3月26日	17	17	4	29	3	1	1	11	3	26	83	161	1,272	
3月27日	17	15	2	17	0	1	5	6	3	4	47	85	1,170	
3月28日	16	16	3	35	0	0	2	4	5	1	70	120	1,149	※3
3月29日	14	14	1	0	3	0	2	10	3	4	50	73	1,117	
3月30日	10	10	5	16	2	0	2	4	3	10	35	77	1,010	
3月31日	11	11	2	8	1	0	4	7	3	7	47	79	1,084	
小計	627	528	139	283	72	22	151	190	142	146	941	2,145	43,570	
4月2日	12	12	9	26	1	0	4	3	5	6	49	103	1,041	
4月5日	10	10	1	16	1	0	2	1	3	2	40	66	935	
4月7日	11	11	3	23	1	0	2	1	3	2	51	86	879	
4月9日	11	11	1	27	0	0	2	0	2	0	44	76	627	
4月12日	11	11	1	3	0	0	5	1	2	0	16	28	539	
4月14日	11	11	1	8	0	0	4	0	1	1	24	39	403	
4月16日	11	11	1	15	1	0	3	1	4	1	24	50	387	
4月19日	7	3	0	2	0	0	1	0	1	1	11	16	56	
4月21日	4	4	0	0	0	0	0	1	1	0	6	8	80	
4月23日	4	4	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	66	
4月26日	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	81	※4
小計	96	92	17	120	4	0	23	8	22	15	272	481	5,094	
合計	723	620	156	403	76	22	174	198	164	161	1,213	2,626	48,664	

※1ライフラインが徐々に復旧

※2避難所退出者が多くなる

※3避難所の統廃合が進む

※4市の保健師の巡回終了